

古代文学特論I			単位数	2単位
授業コード	M1010	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	東城 敏毅			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	古代中世文学			
本授業の概要				
古代文学の学術論文を読み進めることにより、学術論文の構成方法、ならびに論証形式を身に付けると同時に、古代文学の研究方法・問題点等について議論する。さらに、現在学界において、どのような問題点が考察・検討されているのかを概観し、古代文学の諸問題について理解を深める。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	学術論文の読み方について修得できる。			知識・技能／思考・判断・表現力
2	修士論文執筆に应用できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内での学術論文演習 70%			1／2／3
2	論文執筆 30%			1／2／3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 授業ガイダンス 2. 修士論文構成案の検討（1）各章の検討 3. 修士論文構成案の検討（2）各節の検討 4. 論文読解・討議（1）第1論文 5. 論文読解・討議（2）第2論文 6. 論文読解・討議（3）第3論文 7. 論文読解・討議（4）第4論文 8. 論文読解・討議（5）第5論文 9. 論文読解・討議（6）第6論文 10. 論文読解・討議（7）第7論文 11. 論文読解・討議（8）第8論文 12. 論文読解・討議（9）第9論文 13. 論文読解・討議（10）第10論文 14. 参考文献目録の作成 15. 議論の総括				

古代文学特論II			単位数	2単位
授業コード	M1015	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	東城 敏毅			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	古代中世文学			
本授業の概要				
古代文学の学術論文を読み進めることにより、学術論文の構成方法、ならびに論証形式を身に付けると同時に、古代文学の研究手法・問題点等について議論する。さらに、現在学界において、どのような問題点が考察・検討されているのかを概観し、古代文学の諸問題について理解を深める。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	学術論文の読み方について修得できる。			知識・技能／思考・判断・表現力
2	修士論文執筆に应用できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内での学術論文演習 70%			1／2／3
2	論文執筆 30%			1／2／3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 授業ガイダンス 2. 修士論文目次案の検討（1）目次案の作成 3. 修士論文目次案の検討（2）目次案の討議 4. 論文読解・討議（1）第1論文 5. 論文読解・討議（2）第2論文 6. 論文読解・討議（3）第3論文 7. 論文読解・討議（4）第4論文 8. 論文読解・討議（5）第5論文 9. 論文読解・討議（6）第6論文 10. 論文読解・討議（7）第7論文 11. 論文読解・討議（8）第8論文 12. 論文読解・討議（9）第9論文 13. 論文読解・討議（10）第10論文 14. 参考文献目録の作成 15. 議論の総括				

古代文学特論III			単位数	2単位
授業コード	M1020	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	中井 賢一			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	古代中世文学			
本授業の概要				
本授業では、〈在／不在〉、〈系図〉、〈予言・夢〉、〈タイムラグ〉、〈移動・離合集散〉等をキーワードに、物語展開の仕組みについて検証しつつ、修士論文執筆にかかる基礎的技法の習得を図る。桂宮本『うつほ物語』を主に取り上げ、『源氏物語』等、後続の物語への影響とともに考察を進める予定であるが、受講者の状況によってはこの限りでない。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	平安期物語の特徴と問題点について理解を深めることができる。			知識・技能
2	作品解釈の具体的方法を習得することができる。			知識・技能／主体性
3	受講者各自のテーマに沿った論文執筆の技法を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	レポート 40%			1／2／3
2	発表内容と質疑応答状況 40%			2／3
3	復習シート10%			1／2
4	口頭試問 10%			1／2／3
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 講義概要の説明 2. 日本古代文学全般の特徴と問題点 3. 〈在／不在〉と先行研究① 4. 〈在／不在〉と先行研究② 5. 〈系図〉と先行研究① 6. 〈系図〉と先行研究② 7. 〈タイムラグ〉と先行研究 8. 中間まとめ 9. 〈予言・夢〉と先行研究① 10. 〈予言・夢〉と先行研究② 11. 〈移動・離合集散〉と先行研究① 12. 〈移動・離合集散〉と先行研究② 13. 〈人物造型〉と先行研究① 14. 〈人物造型〉と先行研究② 15. まとめ				

古代文学特論Ⅳ			単位数	2単位
授業コード	M1025	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	中井 賢一			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	古代中世文学			
本授業の概要				
本授業では、〈在／不在〉、〈系図〉、〈予言・夢〉、〈タイムラグ〉、〈移動・離合集散〉、〈政治〉、〈享受〉等をキーワードに、物語展開の仕組みについて検証しつつ、修士論文執筆にかかる基礎的技法の習得を図る。桂宮本『うつほ物語』を主に取り上げ、『源氏物語』等、後続の物語への影響とともに考察を進める予定であるが、受講者の状況によってはこの限りでない。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	平安期物語の特徴と問題点について理解を深めることができる。			知識・技能
2	作品解釈の具体的方法を習得することができる。			知識・技能／主体性
3	受講者各自のテーマに沿った論文執筆の技法を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	レポート 40%			1／2／3
2	発表内容と質疑応答状況 40%			2／3
3	復習シート10%			1／2
4	口頭試問 10%			1／2／3
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 講義概要の説明 2. 平安期物語の特徴と問題点 3. 〈政治〉と先行研究① 4. 〈政治〉と先行研究② 5. 〈政治〉と先行研究③ 6. 〈政治〉と先行研究④ 7. 〈サブカルチャー〉と先行研究 8. 中間まとめ 9. 〈享受〉と先行研究① 10. 〈享受〉と先行研究② 11. 〈享受〉と先行研究③ 12. 〈享受〉と先行研究④ 13. その他観点と先行研究① 14. その他観点と先行研究② 15. まとめ				

中世文学特論I			単位数	2単位
授業コード	M1030	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	田仲 洋己			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	古代中世文学			
本授業の概要				
本講義では、主に平安中期から院政期に成立した幾つかの歌論歌学書を取り上げて、その内容や特質、成立の背景等について検討する。資料に即しつつ歌論書・歌学書の記事を精読した上で、その背景にある中世人の和歌観について考える。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	歌論書、歌学書の記事を読み解く作業を通じて、平安中期から院政前期にかけての歌人たちのものの考え方や和歌観等を知り、その概要を言語化できるようにする。			知識・技能／思考・判断・表現力
2	和歌の表現を巡る様々な言説について理解を深め、和歌史的な見地を踏まえて説明できるようにする。			知識・技能／思考・判断・表現力
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	学期末のレポートの内容に対する評価（70％程度）			1／2
2	授業中の態度や質疑応答の内容等による平常点（30％程度）			1／2
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 導入 2. 『古今集仮名序』の歌論（1） 3. 『古今集仮名序』の歌論（2） 4. 『古今集仮名序』の歌論（3） 5. 藤原公任の歌論（1） 6. 藤原公任の歌論（2） 7. 『俊賴髓脳』を巡って（1） 8. 『俊賴髓脳』を巡って（2） 9. 『俊賴髓脳』を巡って（3） 10. 『俊賴髓脳』を巡って（4） 11. 六条藤家の歌学（1） 12. 六条藤家の歌学（2） 13. 六条藤家の歌学（3） 14. 六条藤家の歌学（4） 15. まとめ				

試験等
学期末にレポートを課す。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の中で取り上げる歌論書・歌学書に限らず、同時代の勅撰集・私撰集・家集・歌合記録等の和歌関係の文献に広く目を通し、古代・中世の和歌史全般に関する知識を修得すること（約1時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で利用する資料については、原則として当方で用意して配付する。参考書等についても、授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー
非常勤講師なので、質問等については授業開始前の時間帯、もしくはメールで対応する。
連絡先
kurisuke-hamham@nifty.com（担当講師自宅アドレス）
留意事項
必要に応じて、演習的な内容を盛り込む場合がある。

中世文学特論II			単位数	2単位
授業コード	M1035	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	田仲 洋己			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	古代中世文学			
本授業の概要				
本講義では、主に院政後期から鎌倉時代前期に成立した幾つかの歌論歌学書を取り上げて、その内容や特質、成立の背景等について検討する。資料に即しつつ歌論書・歌学書の記事を精読した上で、その背景にある中世人の和歌観について考える。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	歌論書、歌学書の記事を読み解く作業を通じて、院政後期から新古今時代にかけての歌人たちのものの考え方や和歌観等を知り、その概要を言語化できるようにする。		知識・技能／思考・判断・表現力	
2	和歌の表現を巡る様々な言説について理解を深め、和歌史的な見地を踏まえて説明できるようにする。		知識・技能／思考・判断・表現力	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	学期末のレポートの内容に対する評価（70％程度）		1／2	
2	授業中の態度や質疑応答の内容等による平常点（30％程度）		1／2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 歌人説話の世界（1） 2. 歌人説話の世界（2） 3. 『無名抄』の歌論（1） 4. 『無名抄』の歌論（2） 5. 『無名抄』の歌論（3） 6. 藤原俊成の和歌観（1） 7. 藤原俊成の和歌観（2） 8. 藤原俊成の和歌観（3） 9. 藤原俊成の和歌観（4） 10. 藤原定家の歌論（1） 11. 藤原定家の歌論（2） 12. 藤原定家の歌論（3） 13. 『後鳥羽院御口伝』を巡って（1） 14. 『後鳥羽院御口伝』を巡って（2） 15. まとめ				

試験等
学期末にレポートを課す。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業の中で取り上げる歌論書・歌学書に限らず、同時代の勅撰集・私撰集・家集・歌合記録等の和歌関係の文献に広く目を通し、古代・中世の和歌史全般に関する知識を修得すること（約1時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で利用する資料については、原則として当方で用意して配付する。参考書等についても、授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー
非常勤講師なので、質問等については授業開始前の時間帯、もしくはメールで対応する。
連絡先
kurisuke-hamham@nifty.com（担当講師自宅アドレス）
留意事項
必要に応じて、演習的な内容を盛り込む場合がある。

中世文学特論III			単位数	2単位
授業コード	M1040	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	江草 弥由起			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）	1 講義			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	古代中世文学			
本授業の概要				
各学生に研究対象とする和歌ないし歌語を一つ選択してもらい、選択した和歌・歌語について中古中世和歌の用例や古註釈を用いて解釈・分析を行うことを通して、自身の研究テーマに対するアプローチ方法を模索し研究を深めていくことを目的とする。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	和歌・歌語について、中古中世和歌の用例を元に考察を進めることができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	和歌・歌語について、目的に応じて古註釈を適切に引用して説明することができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内での発言：30%		1／2	
2	発表：40%		1／2	
3	期末レポート：30%		1／2	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：授業ガイダンス 第 2 回：和歌の用例、古註釈について 第 3 回：発表（1） 第 4 回：発表（2） 第 5 回：発表（1）（2）を受けての研究方法の整理 第 6 回：発表（3） 第 7 回：発表（4） 第 8 回：発表（3）（4）を受けての研究方法の整理 第 9 回：発表（5） 第 10 回：発表（6） 第 11 回：発表（5）（6）を受けての研究方法の整理 第 12 回：発表（1）～（6）を受けての期末レポート作成に向けての課題の整理 第 13 回：発表（7） 第 14 回：発表（8） 第 15 回：期末レポート要旨を元にしたディスカッション				

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業内発表の準備（修論のテーマに関連付けた学習）：3時間以上
授業内での意見交換を反映させての再考察：2時間
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業内で適宜配布、指定する。
オフィスアワー
火曜4限（訪問者が重なった場合、事前予約者を優先して対応します。）
連絡先
miyuki.egs@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究テーマに引き付けて考え、積極的に発言してもらいたい。

中世文学特論Ⅳ				単位数	2単位
授業コード	M1045	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	江草 弥由起				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	古代中世文学				
本授業の概要					
各学生に研究対象とする和歌ないし歌語を一つ選択し取り組んでもらう。選択した和歌・歌語について中古中世和歌の用例や古註釈を用いて解釈・分析を行った上で、日記・物語などに見える引歌表現や歌学書にも視野を広げ検討し、自身の研究テーマに対するアプローチ方法を更に深めていくことを目的とする。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	和歌・歌語について、中古中世和歌の用例・古註釈を元に考察を進めることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	和歌・歌語について、目的に応じて歌学書を適切に引用して説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	日記・物語における引歌表現にも目を配り、和歌表現の摂取について考察することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業内での発言：30%			1／2／3	
2	発表：40%			1／2／3	
3	学期末レポート：30%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回：授業ガイダンス					
第 2 回：引歌表現、歌学書について					
第 3 回：発表（1）					
第 4 回：発表（2）					
第 5 回：発表（1）（2）を受けての研究方法の整理					
第 6 回：発表（3）					
第 7 回：発表（4）					
第 8 回：発表（3）（4）を受けての研究方法の整理					
第 9 回：発表（5）					
第 10 回：発表（6）					
第 11 回：発表（5）（6）を受けての研究方法の整理					
第 12 回：発表（1）～（6）を受けての期末レポート作成に向けての課題の整理					
第 13 回：発表（7）					
第 14 回：発表（8）					
第 15 回：期末レポート要旨を元にしたディスカッション					

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業内発表の準備（修論のテーマに関連付けた学習）：3時間以上
授業内での意見交換を反映させての再考察：2時間
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業内で適宜配布、指定する。
オフィスアワー
火曜4限（訪問者が重なった場合、事前予約者を優先して対応します。）
連絡先
miyuki.egs@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究テーマに引き付けて考え、積極的に発言してもらいたい。

古代中世文学演習Ⅰ			単位数	2単位
授業コード	M1050	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	東城 敏毅			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	古代中世文学			
本授業の概要				
履修者の選んだテーマを中心に、研究文献の収集方法とその扱い方、資料分析の方法、レジュメの作成方法、学会発表の方法、論文執筆の方法等、研究方法についての基礎的演習を実施する。				
アクティブラーニングの実施内容		ディベート		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究の基礎的方法について修得できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	学会発表の方法について修得できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	論文執筆の方法について修得できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内演習（発表演習・論文作成演習）50%		1／2／3	
2	論文執筆 50%		1／2／3	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 修士論文内容の検討 2. 修士論文の方法論の検討 3. 修士論文の構成の検討 4. 修士論文目次案の作成と検討 5. 発表・討議（1）レジュメ1の作成 6. 発表・討議（2）レジュメ1の修正 7. 論文執筆・討議（1）論文構成案の検討 8. 論文執筆・討議（2）論文表現の検討 9. 発表・討議（3）レジュメ2の作成 10. 発表・討議（4）レジュメ2の修正 11. 論文執筆・討議（3）各章の検討 12. 論文執筆・討議（4）結論の妥当性の検討 13. 論文執筆・討議（5）序論の作成 14. 議論の総括（1）研究の妥当性 15. 議論の総括（2）研究のまとめ				

試験等
論文提出
試験のフィードバックの方法
随時論文についての質疑を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。
オフィスアワー
火曜日5限 質問は随時メール等でも受け付ける。
連絡先
tojyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究テーマにおける学術論文を数多く読みこなし、論文執筆を積極的に進めること。

古代中世文学演習ⅠⅡ			単位数	2単位
授業コード	M1055	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	東城 敏毅			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	古代中世文学			
本授業の概要				
履修者の選んだテーマを中心にして、研究文献の収集方法とその扱い方、資料分析の方法、レジュメの作成方法、学会発表の方法、論文執筆の方法等、研究方法についての基礎的演習を実施する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究の基礎的方法について修得できる。			知識・技能／思考・判断・表現力
2	学会発表の方法について修得できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	論文執筆の方法について修得できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内演習（発表演習・論文作成演習）50%			1／2／3
2	論文執筆 50%			1／2／3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 修士論文内容の検討（1）構成案 2. 修士論文内容の検討（2）論文の文体 3. 発表・討議（1）レジュメ1の検討 4. 発表・討議（2）レジュメ2の検討 5. 発表・討議（3）レジュメ3の検討 6. 発表・討議（4）レジュメ4の検討 7. 発表・討議（5）レジュメ5の検討 8. 論文執筆・討議（1）第1章の検討 9. 論文執筆・討議（2）第2章の検討 10. 論文執筆・討議（3）第3章の検討 11. 論文執筆・討議（4）第4章の検討 12. 論文執筆・討議（5）終章の検討 13. 論文執筆・討議（6）序章の検討 14. 修士論文検討（1）発表会実施 15. 修士論文検討（2）・総括				

試験等
論文提出
試験のフィードバックの方法
随時論文についての質疑を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
石黒圭『文系研究者になる』（研究社、2021） 他、授業中に適宜指示する。 また、自らの研究テーマにおける参考文献を随時作成すること。
オフィスアワー
火曜日5限 質問は随時メール等でも受け付ける。
連絡先
tojyo@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究テーマにおける学会発表も視野に入れつつ、論文執筆を積極的に進めること。

古代中世文学演習Ⅰ			単位数	2単位
授業コード	M1060	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	中井 賢一			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	古代中世文学			
本授業の概要				
履修者の選んだテーマを中心に、研究文献の収集方法とその扱い方、資料分析の方法、レジュメの作成方法、学会発表の方法、論文執筆の方法等、研究方法についての基礎的演習を実施する。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究の基礎的方法について修得できる。		知識・技能	
2	学会発表の方法について修得できる。		知識・技能／主体性	
3	論文執筆の方法について修得できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内演習（発表演習・論文作成演習）50%		1／2／3	
2	論文執筆 50%		1／2／3	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 修士論文内容の検討 2. 修士論文の方法論の検討 3. 修士論文の構成の検討 4. 修士論文目次案の作成と検討 5. 発表・討議（1）レジュメ1の作成 6. 発表・討議（2）レジュメ1の修正 7. 論文執筆・討議（1）論文構成案の検討 8. 論文執筆・討議（2）論文表現の検討 9. 発表・討議（3）レジュメ2の作成 10. 発表・討議（4）レジュメ2の修正 11. 論文執筆・討議（3）各章の検討 12. 論文執筆・討議（4）結論の妥当性の検討 13. 論文執筆・討議（5）序論の作成 14. 議論の総括（1）研究の妥当性 15. 議論の総括（2）研究のまとめ				

試験等
学期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
コメント表を出す。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）各回の研究発表に際しての、適切な資料作成・原稿準備など（180分）。 （復習）追加調査など（120分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜指示する。
オフィスアワー
金曜日5限（1・2期）
連絡先
k_nakai@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究テーマにおける学術論文を数多く読みこなし、論文執筆を積極的に進めること。

古代中世文学演習ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	M1065	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	中井 賢一				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	古代中世文学				
本授業の概要					
履修者の選んだテーマを中心に、研究文献の収集方法とその扱い方、資料分析の方法、レジュメの作成方法、学会発表の方法、論文執筆の方法等、研究方法についての基礎的演習を実施する。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究の基礎的方法について修得できる。			知識・技能	
2	学会発表の方法について修得できる。			知識・技能／主体性	
3	論文執筆の方法について修得できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業内演習（発表演習・論文作成演習）50%			1／2／3	
2	論文執筆 50%			1／2／3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 修士論文内容の検討（1）構成案 2. 修士論文内容の検討（2）論文の文体 3. 発表・討議（1）レジュメ1の検討 4. 発表・討議（2）レジュメ2の検討 5. 発表・討議（3）レジュメ3の検討 6. 発表・討議（4）レジュメ4の検討 7. 発表・討議（5）レジュメ5の検討 8. 論文執筆・討議（1）第1章の検討 9. 論文執筆・討議（2）第2章の検討 10. 論文執筆・討議（3）第3章の検討 11. 論文執筆・討議（4）第4章の検討 12. 論文執筆・討議（5）終章の検討 13. 論文執筆・討議（6）序章の検討 14. 修士論文検討（1）発表会実施 15. 修士論文検討（2）総括					

試験等
学期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
コメント表を出す。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）各回の研究発表に際しての、適切な資料作成・原稿準備など（180分）。 （復習）追加調査など（120分）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜指示する。
オフィスアワー
金曜日5限（1・2期）
連絡先
k_nakai@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自らの研究テーマにおける学術論文を数多く読みこなし、論文執筆を積極的に進めること。

近世文学特論III			単位数	2単位
授業コード	M1120	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	山本 秀樹			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	近世近代文学			
本授業の概要				
近世の文学注釈書や研究を読む。 近世の古典注釈書や近世文学作品の注釈書や研究を読む。 どの作品の注釈書を読むか、どの部分を読むかは受講生と相談して決める。 近世文学注釈の理解、および、近世の学問・文学に関する理解を深める。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	近世の文学注釈書の記述を理解できるようになる。			知識・技能／思考・判断・表現力
2	近世の文学に関する学問のあり方を知る。			知識・技能／思考・判断・表現力
3	近世の文学に関する学問について疑問を表明できる。			思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業の際の貢献（50%）			1／2／3
2	最終試問（50%）			1／2／3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1 ガイダンス（この講義の概要、進め方） 2 受講生の研究内容について 3 テキストについて 4 近世の文学注釈・研究を読む1 5 近世の文学注釈・研究を読む2 6 近世の文学注釈・研究を読む3 7 近世の文学注釈・研究を読む4 8 近世の文学注釈・研究を読む5 9 近世の文学注釈・研究を読む6 10 近世の文学注釈・研究を読む7 11 近世の文学注釈・研究を読む8 12 近世の文学注釈・研究を読む9 13 近世の文学注釈・研究を読む10 14 近世の文学注釈・研究を読む11 15 近世の文学注釈・研究を読む12				

近世文学特論Ⅳ			単位数	2単位
授業コード	M1125	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	山本 秀樹			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	近世近代文学			
本授業の概要				
近世の文学注釈書や研究を読む。 近世の古典注釈書や近世文学作品の注釈書や研究を読む。 どの作品の注釈書を読むか、どの部分を読むかは受講生と相談して決める。 近世文学注釈の理解、および、近世の学問・文学に関する理解を深める。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	近世の文学注釈書の記述を理解できるようになる。			知識・技能／思考・判断・表現力
2	近世の文学に関する学問のあり方を知る。			知識・技能／思考・判断・表現力
3	近世の文学に関する学問について疑問を表明できる。			思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業の際の貢献（50%）			1／2／3
2	最終試問（50%）			1／2／3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1 ガイダンス（この講義の概要、進め方） 2 受講生の研究内容について 3 テキストについて 4 近世の文学注釈・研究を読む1 5 近世の文学注釈・研究を読む2 6 近世の文学注釈・研究を読む3 7 近世の文学注釈・研究を読む4 8 近世の文学注釈・研究を読む5 9 近世の文学注釈・研究を読む6 10 近世の文学注釈・研究を読む7 11 近世の文学注釈・研究を読む8 12 近世の文学注釈・研究を読む9 13 近世の文学注釈・研究を読む10 14 近世の文学注釈・研究を読む11 15 近世の文学注釈・研究を読む12				

試験等
授業で学んだことに関する試問と回答提出
試験のフィードバックの方法
回答例を示す。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
テキストは受講生に図書館等で写真を撮ってもらい、マナパフォリオにuploadしてもらうことも多くなるので、テキストの選定および写真撮影、マナパフォリオへのuploadの時間が準備学習になる。（1時間程度） 授業では、テキストについて講読するので、その際に、次の授業までの検討課題が生まれる。（1時間程度）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
受講生が撮影しuploadするもの。 必要に応じて、授業中にデータベースで検索し、参考書等を選定する。 適宜、教員も資料を提供する。
オフィスアワー
教室で質疑応答する。
連絡先
yamahide（アットマーク）okayama-u.ac.jp
留意事項
受講者に応じて授業スケジュールを変更することがあります。 また、担当教員は高齢かつ持病がありますので、窓を薄く開けての換気にこころがけます。冬になったら、温かい服装等をする必要があると思います。

近代文学特論I			単位数	2単位
授業コード	M1130	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	山根 知子			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	近世近代文学			
本授業の概要				
日本近代文学（小説および詩・児童文学を扱う）における作品研究・作家研究に取り組み、さまざまな分析方法を模索し、具体的な論を試行する。また、受講者各自の研究課題に応じて具体的な研究方法や表現手法の幅を広げる。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	作品研究・作家研究ともに、設定したねらいに応じた効果的な方法論を工夫して確立するすべを身につけることができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	手続きを踏み根拠を示した説得力のある論考を論文作成において反映させ実践できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内での課題の取り組み：30%		1／2	
2	論文提出：70%		1／2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：近代文学研究方法論について 第 2 回：作品研究の実例について 第 3 回：作品研究から作家研究への実例について 第 4 回：作品成立研究について 第 5 回：作品年譜について 第 6 回：作家年譜について 第 7 回：作家関連資料について 第 8 回：同時代資料と作品・作家研究について 第 9 回：明治文学研究 第 10 回：大正文学研究 第 11 回：昭和文学研究 第 12 回：短詩形文学研究 第 13 回：児童文学研究 第 14 回：論文の構成について 第 15 回：論文の方法論について 課題提出				

試験等
課題提出
試験のフィードバックの方法
授業中にフィードバックする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業進行上必要となる資料収集と整理を行い、それらによる自身の考察の現状を授業で示すことができるように準備しておくこと。（約2時間） 授業時に受けた指導により自身の考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。（約2時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に適宜紹介する。
オフィスアワー
火曜日 2 時限。その他、随時メールでの質問を受け付ける。
連絡先
t-yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
自分の研究方法の可能性を広げることに努め、研究内容に応じた効果的かつ客観性の高い研究方法を臨機応変に実行できるようにし、実際に自分の修士論文についての方法論を確立すること。

近代文学特論II			単位数	2単位
授業コード	M1135	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	山根 知子			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	近世近代文学			
本授業の概要				
日本近代文学（小説および詩・児童文学を扱う）における作品研究・作家研究に取り組み、さまざまな分析方法を模索し、具体的な論を試行する。また、受講者各自の研究課題に応じて具体的な研究方法や表現手法の幅を広げる。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	作品研究・作家研究ともに、設定したねらいに応じた効果的な方法論を工夫して確立するすべを身につけることができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	手続きを踏み根拠を示した説得力のある論考を論文作成において反映させ実践できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内での課題の取り組み：30%		1／2	
2	論文提出：70%		1／2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：論文の論理的展開について 第 2 回：論文の文章について 第 3 回：中間論文に対する評価 第 4 回：論文の構成についての検討 第 5 回：論文の方法論についての検討 第 6 回：論文の論理的展開についての検討 第 7 回：論文の文章についての検討 第 8 回：研究史について 第 9 回：先行研究一覧について 第 10 回：研究史の作成について 第 11 回：先行研究に対する評価について 第 12 回：先行研究についての検討 第 13 回：研究史についての検討 第 14 回：研究の新規性・独自性について 第 15 回：期末論文提出と評価 論文提出				

[illegible]

近代文学特論Ⅳ			単位数	2単位
授業コード	M1145	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	長原　しのぶ			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	近世近代文学			
本授業の概要				
文学を文化現象の1つと捉え、背景となる社会状況とメディアとの関わりの中で昭和期から現代を対象にした日本近現代文学（サブカルチャーを含む小説）の作品研究・作家研究に取り組むための方法論と考察するための手法を議論する。考察するために取り上げる作品については受講生と相談した上で授業を進める。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	作品と作家の背景にある社会と時代状況，メディアとの関わりを的確に捉えることができる。		知識・技能／思考・判断・表現力	
2	客観的資料を用いて作品研究・作家研究を行うことができる。		思考・判断・表現力／主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内での演習（取り組みと発表）と最終レポート（論文）により総合的に評価する。 取り組み（提出課題含む）40%		1	
2	発表20%		1	
3	期末レポート（論文）40%		1／2	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：授業についてのガイダンスと進め方について（扱う作品の相談を含む）				
第 2 回：戦争と文学				
第 3 回：論文読解				
第 4 回：メディアと文学（昭和）				
第 5 回：メディアと文学（平成）				
第 6 回：メディアと文学（令和）				
第 7 回：論文読解				
第 8 回：作品分析と考察（昭和-戦前の文学）				
第 9 回：作品分析と考察（昭和-戦中の文学）				
第 10 回：作品分析と考察（昭和-戦後の文学）				
第 11 回：作品分析と考察（平成前半の文学）				
第 12 回：作品分析と考察（平成後半の文学）				
第 13 回：作品分析と考察（令和の文学）				
第 14 回：論文作成方法について				
第 15 回：最終レポート（論文）指導				

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で取り扱う作品を必ず読み，作家と作品についての資料収集と整理を行い，事前学習となる予習をしておくこと。（約2時間） 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど，作品分析と考察の準備をしておくこと。（約2時間） 自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど，復習をすること。（約2時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業資料を配布し，授業中に適宜指示する。
オフィスアワー
火曜日3限
連絡先
nagahara@m.ndsu.ac.jp
留意事項
昭和から現代の文化的事象を理解するための文献を読むこと。 できるだけ多くの作品研究・作家研究の学術論文を読み，各自の研究方法の幅を広げること。

近代文学特論Ⅴ			単位数	2単位
授業コード	M1150	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	山根 道公			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	日本文学Ⅱ			
本授業の概要				
日本の近代文学においてキリスト教と関わりのある文学作品（明治～戦前）を取り上げ、作品に即してキリスト教的主題や聖書の表現など文学研究上の課題についての分析方法を考察し、読解を試みる。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	キリスト教や聖書との関係のある作品を、キリスト教的主題や聖書の表現等に着目して分析、読解する技術を習得する。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内活動と研究レポートにより評価する。		1	
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：導入 第 2 回：日本文学とキリスト教概説（明治～戦前） 第 3 回：北村透谷 第 4 回：国木田独歩 第 5 回：島崎藤村 第 6 回：内村鑑三 第 7 回：正宗白鳥 第 8 回：有島武郎 第 9 回：志賀直哉 第 10 回：武者小路実篤 第 11 回：宮沢賢治 第 12 回：八木重吉 第 13 回：芥川龍之介 第 14 回：堀辰雄 第 15 回：太宰治 定期試験（レポート）				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で取り上げる作品については、事前に授業中に指示するので、予習として読んで自分の意見をもって授業に臨むこと。（2時間程度） 期末レポートの資料にできるように、毎回の授業の内容を復習し、まとめておくこと。（1時間程度）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは金曜日 12：30-13：00。質問、相談等はメールで随時受け付ける。
連絡先
yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。

近代文学特論Ⅵ			単位数	2単位
授業コード	M1155	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	山根 道公			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	日本文学Ⅱ			
本授業の概要				
日本の近代文学においてキリスト教と関わりのある文学作品（戦後～）を取り上げ、作品に即してキリスト教の主題や聖書の表現など文学研究上の課題についての分析方法を考察し、読解を試みる。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	キリスト教や聖書との関係のある作品を、キリスト教の主題や聖書の表現等に着目して分析、読解する技術を習得する。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内活動と研究レポートにより評価する。			1
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：導入 第 2 回：日本文学とキリスト教概論（戦後～） 第 3 回：吉満義彦・井上洋治 第 4 回：椎名麟三 第 5 回：遠藤周作 第 6 回：三浦綾子 第 7 回：曾野綾子 第 8 回：小川国夫 第 9 回：島尾敏雄 第 10 回：井上ひさし 第 11 回：加賀乙彦 第 12 回：木崎さと子 第 13 回：高橋たか子 第 14 回：安岡章太郎 第 15 回：まとめ 定期試験（レポート）				

試験等
論文提出
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で取り上げる作品については、事前に授業中に指示するので、予習として読んで自分の意見をもって授業に臨むこと。（2時間程度） 期末レポートの資料にできるように、毎回の授業の内容を復習し、まとめておくこと。（1時間程度）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは金曜日 12：30-13：00。質問、相談等はメールで随時受け付ける。
連絡先
yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。

近世近代文学演習Ⅰ			単位数	2単位
授業コード	M1160	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	長原　しのぶ			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	近世近代文学			
本授業の概要				
学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。				
アクティブラーニングの実施内容				
問題解決型学習				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究論文の作成の方法を習得することができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業における取り組み30%		1	
2	研究論文の達成度70%		1	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：研究論文作成内容の検討 第 2 回：論文の方法論の検討 第 3 回：論文の構成の検討 第 4 回：目次の作成と検討 第 5 回：作品テキスト分析 第 6 回：作品関係の資料収集と分析 第 7 回：作家関係の資料収集と分析 第 8 回：同時代の資料収集と分析 第 9 回：研究史・先行研究の収集と分析 第 10 回：目次の再検討 第 11 回：章節のタイトルについての検討 第 12 回：序論の作成と検討 第 13 回：第一章第一節の作成と検討 第 14 回：第一章第二節の作成と検討 第 15 回：第一章第三節の作成と検討				

近世近代文学演習ⅠⅠ				単位数	2単位
授業コード	M1165	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	長原　しのぶ				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	近世近代文学				
本授業の概要					
学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。					
アクティブラーニングの実施内容					
問題解決型学習					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究論文の作成の方法を習得することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業における取り組み30%			1	
2	研究論文の達成度 70%			1	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回：第二章第一節の作成と検討 第 2 回：第二章第二節の作成と検討 第 3 回：第二章第三節の作成と検討 第 4 回：第三章第一節の作成と検討 第 5 回：第三章第二節の作成と検討 第 6 回：第三章第三節の作成と検討 第 7 回：第四章第一節の作成と検討 第 8 回：第四章第二節の作成と検討 第 9 回：第四章第三節の作成と検討 第 10 回：第五章第一節の作成と検討 第 11 回：第五章第二節の作成と検討 第 12 回：第五章第三節の作成と検討 第 13 回：結論の作成と検討 第 14 回：注の作成と検討 第 15 回：巻末資料の作成と検討					

試験等
研究論文の提出
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
作家と作品についての資料収集と整理を行い，事前学習となる予習をしておくこと。（約2時間） 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど，作品分析と考察の準備をしておくこと。（約2時間） 自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど，復習をすること。（約2時間）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業内で適宜指示する。
オフィスアワー
火曜日3限
連絡先
nagahara@m.ndsu.ac.jp
留意事項
数多くの文献を読みこなすこと。

近世近代文学演習Ⅰ				単位数	2単位
授業コード	M1170	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	山根 知子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	近世近代文学				
本授業の概要					
学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。					
アクティブラーニングの実施内容					
調査学習					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究論文の作成の方法を習得することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	作成した論文等の達成度によって判断する。			1	
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回：研究論文作成内容の検討 第 2 回：論文の方法論の検討 第 3 回：論文の構成の検討 第 4 回：目次の作成と検討 第 5 回：作品テキスト分析 第 6 回：作品関係の資料収集と分析 第 7 回：作家関係の資料収集と分析 第 8 回：同時代の資料収集と分析 第 9 回：研究史・先行研究の収集と分析 第 10 回：目次の再検討 第 11 回：章節のタイトルについての検討 第 12 回：序論の作成と検討 第 13 回：第一章第一節の作成と検討 第 14 回：第一章第二節の作成と検討 第 15 回：第一章第三節の作成と検討					

近世近代文学演習ⅠⅠ			単位数	2単位
授業コード	M1175	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	山根 知子			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	近世近代文学			
本授業の概要				
学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。				
アクティブラーニングの実施内容				
調査学習				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究論文の作成の方法を習得することができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	作成した論文等の達成度によって判断する。		1	
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：第二章第一節の作成と検討 第 2 回：第二章第二節の作成と検討 第 3 回：第二章第三節の作成と検討 第 4 回：第三章第一節の作成と検討 第 5 回：第三章第二節の作成と検討 第 6 回：第三章第三節の作成と検討 第 7 回：第四章第一節の作成と検討 第 8 回：第四章第二節の作成と検討 第 9 回：第四章第三節の作成と検討 第 10 回：第五章第一節の作成と検討 第 11 回：第五章第二節の作成と検討 第 12 回：第五章第三節の作成と検討 第 13 回：結論の作成と検討 第 14 回：注の作成と検討 第 15 回：巻末資料の作成と検討				

近世近代文学演習Ⅰ			単位数	2単位
授業コード	M1180	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	山根 道公			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	近世近代文学			
本授業の概要				
学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究論文の作成の方法を習得することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業における取り組み 30% 研究論文の達成度 70%			1
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：研究論文作成内容の検討 第 2 回：論文の方法論の検討 第 3 回：論文の構成の検討 第 4 回：目次の作成と検討 第 5 回：作品テキスト分析 第 6 回：作品関係の資料収集と分析 第 7 回：作家関係の資料収集と分析 第 8 回：同時代の資料収集と分析 第 9 回：研究史・先行研究の収集と分析 第 10 回：目次の再検討 第 11 回：章節のタイトルについての検討 第 12 回：序論の作成と検討 第 13 回：第一章第一節の作成と検討 第 14 回：第一章第二節の作成と検討 第 15 回：第一章第三節の作成と検討				

試験等
論文提出
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 作家と作品についての資料収集と整理を行い、事前学習となる予習をしておくこと。（約2時間） 先行研究の問題点や自分の着眼点を的確に説明できる発表資料を作成するなど、作品分析と考察の準備をしておくこと。（約2時間） 自分の発表時に受けたアドバイスにより作品分析と考察の内容に修正を加えるなど、復習をすること。（約2時間）
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜指示する。
オフィスアワー 金曜日 12:30-13:00。質問、相談等はメールで随時受け付ける。
連絡先 yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項 数多くの文献を読みこなすこと。

近世近代文学演習II			単位数	2単位
授業コード	M1185	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	山根 道公			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	近世近代文学			
本授業の概要				
学生の選んだテーマを中心として、資料の取り上げ方から、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練を行い、研究論文を作成する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究論文の作成の方法を習得することができる。			知識・技能
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業における取り組み 30% 研究論文の達成度 70%			1
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：研究論文作成内容の検討 第 2 回：論文の方法論の検討 第 3 回：論文の構成の検討 第 4 回：目次の作成と検討 第 5 回：作品テキスト分析 第 6 回：作品関係の資料収集と分析 第 7 回：作家関係の資料収集と分析 第 8 回：同時代の資料収集と分析 第 9 回：研究史・先行研究の収集と分析 第 10 回：目次の再検討 第 11 回：章節のタイトルについての検討 第 12 回：序論の作成と検討 第 13 回：第一章第一節の作成と検討 第 14 回：第一章第二節の作成と検討 第 15 回：第一章第三節の作成と検討				

日本語学特論I				単位数	2単位
授業コード	M1211	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	江口 泰生				
時間割備考	日程は別途指示する				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	日本語史の諸問題における基礎と展開				
本授業の概要					
担当者は外国資料、古辞書、万葉集などを利用して、日本語の形態音韻論的な研究を進めています。 その知見を利用して、日本語史の基礎的な事項について講義する予定ですが、受講生の研究テーマにどこか関連し、少しでも役に立つように工夫したいと思います。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	日本語史の基礎的な知識・方法などを学びます。万葉集、万葉仮名、上代特殊仮名遣い、動詞活用、開合、四つ仮名、漢語、連濁、語彙、敬語など。			知識・技能	
2	具体例を読んだり、解釈したり、説明できたりするようにします。			知識・技能／思考・判断・表現力	
3	万葉仮名資料、外国資料などに触れ、概略が読めるようにします。			知識・技能	
4	根拠・説明を1セットにして文章に纏める練習をします。			思考・判断・表現力	
5	小課題の文章を一段落とし、それらを幾つかまとめて、大きな文章を作成します。			思考・判断・表現力	
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	日本語史の基礎的な事項について具体例を挙げながら説明してもらいます。なにを参照してもOKです。			1	
2	質疑に答えてもらいます。			1／2	
3	文献を読んでもらったり、説明してもらったりします。			1／2／3	
4	課題について小さな文章（レポート）を書いてもらいます。			4	
5	課題について、それまでに書き溜めた小さなレポートを利用してやや長めの文章を書いてもらいます。			5	
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					

授業予定一覧 担当者は外国資料、古辞書、万葉集などを利用して、日本語の形態音韻論的な研究を進めています。 中央語史を客観的に観察するために、方言資料を用いることも多いです。 その知見を利用して、日本語史の基礎的な事項について講義する予定ですが、受講生の研究テーマとどこか関連し、少しでも役に立つように工夫したいと思います。 そこで一応、以下のように計画を立てておきますが、受講者の研究テーマによっては、一部割愛したり、詳述したり、順序を入れ替えたり、新規に新内容を取り込んだりして、少しでもお役にたてたらと思っています。 1、ロシア資料概説 1-1、ロシア資料（『日本語学大辞典』の「露語資料」項目。日本語学大事典） 1-2、ロシア学資料（『日本語学大辞典』の「露語資料」項目。平成29年11月 2017.11「江戸時代ロシア漂流者の記録にみる嗜好品文化の研究」『平成28年度 公益財団法人たばこ総合研究センター 助成研究報告』（公益財団法人たばこ総合研究センターTASC） 2 方法について 2-1音韻覚書 2-2、音質と音数（2001.3「音質と音数」『倭伽林學報』4） 3、動詞形成の諸相 3-1、母音交替（エ乙ーア交替）による動詞の生成（令和3年3月 2021.3「ロシア資料と上代特殊仮名遣工列音-下二段動詞と四段動詞-」（『筑紫語学論叢Ⅲ』風間書房） 3-2、上二段動詞の成立と展開 オノマトペ派生による動詞の派生 3-3、ア段とオ段の交替 3-4、名詞による動詞派生（1992.12「「背負う」・「担ぐ」の表現」『国語学』171） 4、音韻の機能的側面 4-1、万葉集の字余り 4-2、古代日本語の長母音（平成30年3月 2018.3「古代日本語の長母音」『国語と国文学』平成30年4月号） 4-3、擬音擬態語の特殊拍（平成18年5月 2006.5 鎌倉時代擬音擬態語の特殊拍 『筑紫語学論叢Ⅱ』風間書房 4-4、動詞の音便形について-『天正狂言本』-（『文献探究』20） 4-5、特殊拍の位置について（2020.3「タタリノフ『レクシコン』の特殊拍」（『坂口至教授退職記念 日本語論集』創想社） 5、破擦音化 5-1、ク音の破擦化（2019.12 A. タタリノフ『レクシコン』注釈9（ㄥ〜ㄱ）（『岡山大学文学部紀要』72） 5-2、破擦化の解釈（令和3年12月 2021.12 A. タタリノフ『レクシコン』注釈10（文例集1）（『岡山大学文学部紀要』74） 5-3、ザ行とダ行の混同について（2016.12 A. タタリノフ『レクシコン』注釈8（ㄱ〜ㄴ）（『岡山大学文学部紀要』66） 5-4、四つ仮名の混同（2015.8 タタリノフ著『レクシコン』からみた18世紀下北佐井方言の四つ仮名（『国語と国文学』平成二十七年九月号） 6、漢語の国語化 6-1、漢語アクセントの国語化（1985.6「『和名類聚抄』の「俗」音注」『国語学』141 P1〜17） 6-2、漢語連濁の一視点（1993.12「漢語連濁の一視点 一貞享版『補忘記』における一」『国語国文』62-12 P15〜28） 6-3、連濁と語構造（1994.3「連濁と語構造」『岡大國文論稿』22 P375〜366） 6-4、漢語サ変動詞の自他性（1989.6「漢語サ変動詞の自他性と態」『国語学論叢』 桜楓社 P765〜784） 7、開音・合音・ウ段音 7-1、鎌倉時代のサ行拗音（・1986.12『大般若波羅蜜多經』読誦音について―資料の解釈と読誦音の変遷―『語文研究』62） 7-2、方言開合研究の黎明-中村柳一のこと-（『岡大論稿』50） 7-3、開音・合音・ウ段音（令和3年6月 2021.6「東国文献の開音・合音・ウ段音」（『語文研究』） 8、方言の敬語体系 8-1、東北方言の敬語（平成25年12月 2013.12 レザノフ『日本語学習の手引き』第9章「会話」篇からみた18世紀末石巻方言の敬語 『語文研究』110） 8-2、2012.12 レザノフ「会話」からみた18世紀末石巻方言のマスとマスル 『国語国文』 81-12、P1〜12 8-3、広島方言の敬語について 9、文学作品の言語 9-1、万葉集の解釈断片 しはぶかひ 鼻ビシビシに しかとあらぬ 日月のした たにぐくの ソウケウに はひおほとれる クソカヅラ 香塗れる 塔にな寄りそ 9-2、戯作の方言-佐賀方言史、2010.3 佐賀方言戯作の終助詞パイとバン『岡大國文論稿』38 9-3、太宰治の表現（「推敲・造型・感覚・言葉-近現代小説の言語-」山口県国語部会 『国語』69） 9-4、修飾の入れ子構造-坂口安吾『夜長姫と耳男』について- 9-5、夢野久作『ドグラ・マグラ』の叙述トリック
--

試験等
講義中に数回、講義中の問題について小さなレポートを書いてもらい、最終的にそれらの小レポートを合体させて、一つのレポートにしてもらおうと考えています。
試験のフィードバックの方法
小課題についてはその次の時間に、大きな課題については、口頭あるいはメールなどを利用してフィードバックします。添削をする場合もあります。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
日本語史については以下が便利です。 音韻に就いては、ひつじ書房『基礎日本語学』の「音韻史」（平子達也執筆） 文法史については、世界思想史『国語史を学ぶ人のために』の第五章「文法史」（青木博史執筆） ネットでみれるものをあげておきます。暇なときに読んでみると良いでしょう。 2014、音韻(史的研究)(<特集>2012年・2013年における日本語学界の展望)『日本語の研究』10-3 2017. 11「江戸時代ロシア漂流者の記録にみる嗜好品文化の研究」『平成28年度 公益財団法人たばこ総合研究センター 助成研究報告』（公益財団法人たばこ総合研究センターTASC） 上二段動詞の成立と展開 1992. 12「「背負う」・「担ぐ」の表現」『国語学』171） 形態音韻論的観点からみた万葉集の字余り（『国語学』要旨集） 動詞の音便形について-『天正狂言本』-（『文献探究』20） A. タタリノフ『レキシコン』注釈1～10 1985. 6「『和名類聚抄』の「俗」音注」『国語学』141 1994. 3「連濁と語構造」『岡大国文論稿』22 1986. 12『大般若波羅蜜多經』読誦音について―資料の解釈と読誦音の変遷― 『語文研究』62） 2021. 6「東国文献の開音・合音・ウ段音」（『語文研究』） 2013. 12 レザノフ『日本語学習の手引き』第9章「会話」篇からみた18世紀末石巻方言の敬語 『語文研究』110） 2010. 3 佐賀方言戯作の終助詞パイとパン『岡大国文論稿』38 1、ロシア資料とロシア学資料 ・『日本語学大辞典』の「露語資料」項目。 Cyrillic documents recording Japanese dialects in Russia and Historical materials on Russian studies in Japan ロシア資料とロシア学資料。 日本語学大事典 ・平成29年11月 2017. 11「江戸時代ロシア漂流者の記録にみる嗜好品文化の研究」『平成28年度 公益財団法人たばこ総合研究センター 助成研究報告』（公益財団法人たばこ総合研究センターTASC） pp. 104～135…ロシア学資料 2、研究史 ベトロフ 平成25年12月 2013. 12 ベトロフの『レキシコン』研究について（前） 『岡山大学文学部紀要』60 p59～68 平成26年3月 2014. 3 ベトロフの『レキシコン』研究について（後） 『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』37 p1～11 村山七郎『漂流民の言語』 平成26年12月 2014. 12 A. タタリノフ『レキシコン』注釈1（A～E）（『岡山大学文学部紀要』62 39P～49P 3、『レキシコン』の成立過程 3-1、見出しロシア語の収集について 平成27年11月 2015. 11 A. タタリノフ『レキシコン』注釈4（K～Л）（『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』40 1p～11p） 3-2、キリル文字日本語とひらがな日本語の記入 平成28年3月 2016. 3 A. タタリノフ『レキシコン』注釈5（M～H）（『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』41 pp. 1-12） 3-3、文例集の成立について ・2021. 12予定 A. タタリノフ『レキシコン』注釈10（文例集1）（『岡山大学文学部紀要』74、pp. -） 4、語彙研究 ・方法、語彙ヤヌニ、ビンズギリ ・平成27年 2015. 3 A. タタリノフ『レキシコン』注釈2（B～E）（『岡大国文論稿』43）P14～P20、タビゴロ ・平成27年 2015. 7 A. タタリノフ『レキシコン』注釈3（ж～и）（『岡山大学文学部紀要』63 p49～63）カド、オド 8、2001. 3「音質と音数」『倭加林學報』4 p55～67…音質を増やして受け入れる場合と、既存の音韻を利用してその音長を増やして処理する場合がある。 連濁の拍現象 3-1、古代日本語の長母音の一部 ・特殊拍には機能的側面＝語種分別の機能があることを長音の場合で述べる。 ・平成30年3月 2018. 3「古代日本語の長母音」『国語と国文学』平成30年4月号pp. 50～pp. 68 3-5、特殊拍の位置について ・令和2年3月 2020. 3「タタリノフ『レキシコン』の特殊拍」（『坂口至教授退職記念 日本語論集』創想社63-86）…特殊拍の消失と保存 3-4、動詞の音便形について-『天正狂言本』- ・1987. 9「東国文献としての「天正狂言本」―動詞の音便形について―」『文献探究』20 P30～38 …表記はされるが、促音と撥音の区別がない。ガ行四段は撥音便かも。語中の母音が後続濁音で鼻音化される。吸収される場合もある。濁音の鼻音性を保持する。音色重視。 ・音便拍の機能的な側面が未完成な方言では一拍分を失い、後続音に吞まれることがある。 ・音便拍の機能的側面。一拍分を失う場合と保存する場合とがあり、それは機能的な意味を持ち始め、音便拍の機能的側面を特殊拍の場合で述べる。 4、破擦音化 4-1、ク音の破擦化 ・令和1年12月 2019. 12 A. タタリノフ『レキシコン』注釈9（Ц～Я）（『岡山大学文学部紀要』72、29-37）…ク音が破擦化していたのではないか 4-2、破擦化 令和3年12月 2021. 12 A. タタリノフ『レキシコン』注釈10（文例集1）（『岡山大学文学部紀要』74、pp. 57-67） 4-3、ザ行とダ行の混同について 平成28年12月 2016. 12 A. タタリノフ『レキシコン』注釈8（Y～X）（『岡山大学文学部紀要』66 pp. 55～66） 6、開音・合音・ウ段音 6-1、鎌倉時代のサ行拗音 ・1986. 12 『大般若波羅蜜多經』読誦音について―資料の解釈と読誦音の変遷― 『語文研究』62 P50～62…サ行拗音と直音を区別しないという体系と新たにウ段拗長音が出現 6-2、方言開合研究の黎明-中村柳一のこと- 6-3、開音・合音・ウ段音 ・令和3年6月 2021. 6「東国文献の開音・合音・ウ段音」（『語文研究』） 4-4、四つ仮名の混同 ・平成27年8月 2015. 8 タタリノフ著『レキシコン』からみた18世紀下北佐井方言の四つ仮名（『国語と国文学』平成二十七年九月号p50～66）…破裂音が破擦化しやすいこと 7、母音無声化と子音有声化 7-1、母音無声化 平成28年3月 2016. 3 18世紀下北方言の母音無声化- 付：A. タタリノフ『レキシコン』注釈7（C～T）-岡山大学『文化共生学研究』15 pp. 39-51） 7-2、カ行タ行の有声化について ・平成22年6月 2010. 6. 1「レザノフ資料の日本語」『語文研究』 108. 109 ㉒～16…カ行タ行の有声音化 5、漢語の国語化 5-1、漢語アクセントの国語化 1985. 6「『和名類聚抄』の「俗」音注」『国語学』141 P1～17 5-2、漢語連濁の一視点 1993. 12「漢語連濁の一視点 一貞享版『補忘記』における―」『国語国文』62-12 P15～28。清音、濁音、連声濁の関係 5-3、連濁と語構造 1994. 3「連濁と語構造」『岡大国文論稿』22 P375～366…連濁が語彙の構造と連動していること。 2-5、漢語サ変動詞の自他性 1989. 6「漢語サ変動詞の自他性と態」『国語学論叢』 桜楓社 P765～784…釘貫が主張するような、自動詞他動詞を形式で決めるという方向がありうるのか？ 原本調査の結果、判明したこと 平成28年3月 2016. 3 A. タタリノフ『レキシコン』注釈6（O～P）（『岡山大学文学部紀要』64 pp. 49-56） タタリノフ『レキシコン』翻刻 また青空文庫で太宰治『人間失格』、坂口安吾『夜長姫と耳男』、夢野久作『ドグラ・マグラ』などを読んでみてください。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
特に指定はしませんが、高校のときに用いた古語辞典、文法書、電子辞書などがあれば持参してください。
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考

高校のときに用いた古語辞典、文法書などがあれば持参してください。 日本語史については以下が便利です。 音韻に就いては、ひつじ書房『基礎日本語学』の「音韻史」（平子達也執筆） 文法史については、世界思想史『国語史を学ぶ人のために』の第五章「文法史」（青木博史執筆）
オフィスアワー 授業中、終了後に教室で質問を受け付けます。
連絡先 eguegu1958@gmail.com
留意事項 特になし。

日本語学特論III			単位数	2単位
授業コード	M1221	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	星野 佳之			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	1 講義			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）				
本授業の概要				
日本語の文法について考察する（現代語中心、但し現代語の前史としての古代語等に論述が及ぶことがある）。 副助詞が表すとされる「程度」の表現は、いわゆる「程度副詞」等が果たすものとどのような関係にあるものか、考察する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	文法論的問題にどのようなものがあるのか理解する。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	文法論的なものの考え方を理解する。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	みずから文法論的問題を発見し、考察できるようになる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業中の課題に30点を配当する。			1／2／3
2	期末レポートの作成を課す。これに70点を配当する。			1／2／3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回 ガイダンス 第2回 ” 程度” の表現に関する各論1 第3回 ” 程度” の表現に関する各論2 第4回 ” 程度” の表現に関する各論3 第5回 ” 程度” の表現に関する各論4 第6回 ” 程度” の表現に関する各論5 第7回 ” 程度” の表現に関する各論6 第8回 ” 程度” の表現に関する各論7 第9回 ” 程度” の表現に関する各論8 第10回 ” 程度” の表現に関する各論9 第11回 ” 程度” の表現に関する各論10 第12回 ” 程度” の表現に関する各論11 第13回 ” 程度” の表現に関する各論12 第14回 ” 程度” の表現に関する各論13 第15回 ” 程度” の表現に関する各論14 定期試験				

試験等
定期試験として、期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
適宜。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必要な内容について各自判断し、必要十分に行うこと。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
火曜3限。 質問等面談を希望する場合は、以下のメールアドレスにてアポイントを取ること。
連絡先
hoshino_yoshiyuki@m.ndsu.ac.jp
留意事項
●国立国語研究所のコーパスWebアプリ『中納言』の利用が必須。受講する場合は利用申請を行うこと。 https://chunagon.ninjal.ac.jp/auth/login?service=https%3A%2F%2Fchunagon.ninjal.ac.jp%2Fspring-cas_security_check ●受講者は必ず、初回までにNサポとマナバフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。

日本語学特論Ⅳ			単位数	2単位
授業コード	M1226	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	星野 佳之			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	1 講義			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）				
本授業の概要				
日本語の文法について考察する（現代語中心、但し現代語の前史としての古代語等に論述が及ぶことがある）。 今年度は、例示の「副助詞」類としてクライの副助詞用法の発生過程を探りたい。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	文法論的問題にどのようなものがあるのか理解する。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	文法論的なものの考え方を理解する。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	みずから文法論的問題を発見し、考察できるようになる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業中の課題に30点を配当する。			1／2／3
2	期末レポートの作成を課す。これに70点を配当する。			1／2／3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回 ガイダンス 第2回 副助詞に関する各論1 第3回 副助詞に関する各論2 第4回 副助詞に関する各論3 第5回 副助詞に関する各論4 第6回 副助詞に関する各論5 第7回 副助詞に関する各論6 第8回 副助詞に関する各論7 第9回 副助詞に関する各論8 第10回 副助詞に関する各論9 第11回 副助詞に関する各論10 第12回 副助詞に関する各論11 第13回 副助詞に関する各論12 第14回 副助詞に関する各論13 第15回 副助詞に関する各論14 定期試験				

試験等
定期試験として、期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
適宜。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
必要な内容について各自判断し、必要十分に行うこと。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
火曜3限。 質問等面談を希望する場合は、以下のメールアドレスにてアポイントを取ること。
連絡先
hoshino_yoshiyuki@m.ndsu.ac.jp
留意事項
●国立国語研究所のコーパスWebアプリ『中納言』の利用が必須。受講する場合は利用申請を行うこと。 https://chunagon.ninjal.ac.jp/auth/login?service=https%3A%2F%2Fchunagon.ninjal.ac.jp%2Fspring-cas_security_check ●受講者は必ず、初回までにNサポとマナバフォリオのリマインダー機能を使用可能な状況にしておくこと。

日本語学特論Ⅴ			単位数	2単位
授業コード	M1231	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	尾崎 喜光			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	日本語学			
本授業の概要				
現代の話し言葉の多様性の一つである地域による言葉の違いすなわち「方言」について、中国地方を中心とする専門書を読み理解を深めた上で、当該地方を舞台として設定する文学作品等において方言がどのように使われているかについて研究する。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	方言とりわけ中国地方の方言の特徴について理解できる。			知識・技能
2	当該地方を舞台として設定する文学作品等の会話部分に現れる方言をどのように分析するかについて担当教員と議論・検討して研究方法を決めることができる。			思考・判断・表現力／主体性
3	文学作品等の会話部分に現われる方言についての調査・分析ができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内活動：50%			1／2／3
2	研究レポート：50%			3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：ガイダンス 第2回：教材の精読と解説（1）「1 中国方言の概説」 第3回：教材の精読と解説（2）「2 中国方言の語彙」 第4回：教材の精読と解説（3）「3 岡山県の方言」 第5回：教材の精読と解説（4）「4 広島県の方言」 第6回：教材の精読と解説（5）「5 山口県の方言」 第7回：教材の精読と解説（6）「6 鳥取県の方言」 第8回：教材の精読と解説（7）「7 島根県の方言」 第9回：教材の精読と解説（8）「8 中国方言と国語教育」 第10回：分析対象とする小説についての検討（1）－地域－ 第11回：分析対象とする小説についての検討（2）－時代－ 第12回：データの蓄積方法についての検討（1）－地域－ 第13回：データの蓄積方法についての検討（2）－時代－ 第14回：予備的分析の報告と検討（1）－地域－ 第15回：予備的分析の報告と検討（2）－時代－				

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
研究室にて個別に伝える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
前回の授業でのディスカッションで明らかになった課題について解決法を考えるとともに、解決法の案を次回のレジュメとして作成する。おおむね2時間。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
飯豊毅一他編（1982）『講座方言学 8 中国・四国地方の方言』（国書刊行会）〔ISBN：4-336-01979-7〕 ＊現在では入手困難であることが予想される。入手できない場合は図書館等に入れてある本を授業で利用する。
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
オフィスアワー
木曜日3限。
連絡先
yozaki@post.ndsu.ac.jp
留意事項
PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。

日本語学特論Ⅵ			単位数	2単位
授業コード	M1236	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	尾崎 喜光			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	日本語学			
本授業の概要				
現代の話し言葉の多様性の一つである地域による言葉の違いすなわち「方言」について、中国地方を中心とする専門書を読み理解を深めた上で、当該地方を舞台として設定する文学作品等において方言がどのように使われているかについて研究する。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	分析対象とする文学作品等の妥当性について再検討することができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	文学作品等の会話部分に現われる方言について多角的に分析できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内活動：50%		1／2	
2	研究レポート：50%		2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：夏季休暇の間の進捗状況についての確認 第2回：分析対象とする小説についての再検討（1）-地域- 第3回：分析対象とする小説についての再検討（2）-時代- 第4回：中間分析の報告と検討（1）-地域- 第5回：中間分析の報告と検討（2）-時代- 第6回：分析の観点に関する再検討 第7回：分析の観点に関する再検討を受けての予備的分析の報告（1）-地域- 第8回：分析の観点に関する再検討を受けての予備的分析の報告（2）-時代- 第9回：分析報告と検討（1）-地域別- 第10回：分析報告と検討（2）-時代別- 第11回：分析報告と検討（3）-作家別- 第12回：分析報告と検討（4）-作品別- 第13回：分析報告と検討（5）-ジャンル別- 第14回：分析報告と検討（6）-総合- 第15回：総括				

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法 研究室にて個別に伝える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 前回の授業でのディスカッションで明らかになった課題について解決法を考えるとともに、解決法の案を次回のレジュメとして作成する。おおむね2時間。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
飯豊毅一他編（1982）『講座方言学 8 中国・四国地方の方言』（国書刊行会）〔ISBN：4-336-01979-7〕 * 「日本語学特論Ⅴ」で使った学術図書である。 * 現在では入手困難であることが予想される。入手できない場合は図書館等に入れてある本を授業で利用する。
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
オフィスアワー 水曜日2限。
連絡先 yozaki@post.ndsu.ac.jp
留意事項 PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。

日本語学演習I			単位数	2単位
授業コード	M1250	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	尾崎 喜光			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	日本語学			
本授業の概要				
各自の研究課題について社会言語学的観点から検討する。自身が行なおうとする研究の位置づけを確認するとともに研究の方向性を検討するために、概説的な文献・専門性の高い先行研究・資料を読んで学ぶ。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究計画を立て研究に着手できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	先行研究を精読することで自身の研究の位置づけを把握できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	先行研究を整理し研究レポートで適切に言及できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業活動内容：50%		1／2／3	
2	研究レポート：50%		1／2／3	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：ガイダンス 第2回：研究計画についての発表と検討(1) 第3回：研究計画についての発表と検討(2) 第4回：研究計画についての発表と検討(3) 第5回：先行研究の探し方(1) 第6回：先行研究の探し方(2) 第7回：研究発表と議論(1) -1巡目- 第8回：研究発表と議論(2) -1巡目- 第9回：研究発表と議論(3) -1巡目- 第10回：研究計画についての再検討(1) 第11回：研究計画についての再検討(2) 第12回：研究発表と議論(4) -2巡目- 第13回：研究発表と議論(5) -2巡目- 第14回：研究発表と議論(6) -2巡目- 第15回：夏季休暇期間の研究の進め方についての検討				

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法 研究室にて個別に伝える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間 前回の授業でのディスカッションで明らかになった課題について解決法を考えるとともに、解決法の案を次回の授業のレジュメとして作成する。おおむね4時間。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書> 中山緑朗他編著（2009）『みんなの日本語事典』（明治書院）〔ISBN：978-4-625-38402-8〕
オフィスアワー 木曜日3限。事前予約の上来てほしい。
連絡先 yozaki@post.ndsu.ac.jp
留意事項 オリジナルデータを収集し分析するにあたってはPCを用いてデータベースを作成する。データベースの作成では授業時間以外の時間も使う必要がある。

日本語学演習II			単位数	2単位
授業コード	M1255	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	尾崎 喜光			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	日本語学			
本授業の概要				
自身が行なおうとする研究の位置づけを確認するとともに研究の方向性を検討するために概説的な文献・専門性の高い先行研究・資料を読んで学んだことをふまえ、各自の研究課題について社会言語学的観点からさらに検討し、研究を実際に進める。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究計画を立て研究に着手できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	先行研究を整理し研究レポートで適切に言及できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業活動内容：50%		1／2	
2	研究レポート：50%		1／2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回：進捗状況の確認と第2期の研究計画についての検討 第2回：研究発表と議論(7) -3巡目- 第3回：研究発表と議論(8) -3巡目- 第4回：研究発表と議論(9) -3巡目- 第5回：論文執筆指導(1) -1巡目- 第6回：論文執筆指導(2) -1巡目- 第7回：論文執筆指導(3) -1巡目- 第8回：論文執筆指導(4) -2巡目- 第9回：論文執筆指導(5) -2巡目- 第10回：論文執筆指導(6) -2巡目- 第11回：論文執筆指導(7) -3巡目- 第12回：論文執筆指導(8) -3巡目- 第13回：論文執筆指導(9) -3巡目- 第14回：論文執筆指導(10) -4巡目- 第15回：論文執筆指導(11) -4巡目-				

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
研究室にて個別に伝える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
前回の授業でのディスカッションで明らかになった課題について解決法を考えるとともに、解決法の案を次回の授業のレジュメとして作成する。おおむね4時間。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
オフィスアワー
水曜日2限。事前予約の上来てほしい。
連絡先
yozaki@post.ndsu.ac.jp
留意事項
オリジナルデータを収集し分析するにあたってはPCを用いてデータベースを作成する。データベースの作成では授業時間以外の時間も使う必要がある。

日本思想史特論I		単位数		2単位	
授業コード	M1310	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	本村 昌文				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	1 講義				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				
本授業の概要					
「死生観」（死とは何か、死後人はどうなるのか、死を迎えるまでにいかに生きるか）に関する日本思想史関係の史料を講読する。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	日本の思想の歴史的展開を説明することができる。			知識・技能	
2	日本における「死」についての考え方の変遷を説明することができる。			知識・技能	
3	日本思想史関係の史料の読み方を理解し、実践できる。			思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業での取り組み40%			1/2/3	
2	最終レポート60%			1/2/3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第1回	ガイダンスー日本思想史とは何か？ー				
第2回	講読する史料の説明				
第3回	史料講読				
第4回	史料講読				
第5回	史料講読				
第6回	史料講読				
第7回	史料講読				
第8回	史料講読				
第9回	史料講読				
第10回	史料講読				
第11回	史料講読				
第12回	史料講読				
第13回	史料講読				
第14回	史料講読				
第15回	まとめ				

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
担当箇所の現代語訳、関連資料の調査（4時間程度）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜，プリントなどを配布する。
オフィスアワー
授業の前後
連絡先
tomtom@okayama-u.ac.jp
留意事項
自分の研究テーマと関連させる意識をもつ。

日本思想史特論II			単位数	2単位
授業コード	M1315	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	本村 昌文			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）	1 講義			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
「死生観」（死とは何か、死後人はどうなるのか、死を迎えるまでにいかに生きるか）に関する日本思想史関係の史料を講読する。前期とは異なる史料を講読する。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	日本の思想の歴史的展開を説明することができる。		知識・技能	
2	日本における「死」についての考え方の変遷を説明することができる。		知識・技能	
3	日本思想史関係の史料の読み方を理解し、実践できる。		思考・判断・表現力	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業での取り組み40%		1/2/3	
2	最終レポート60%		1/2/3	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第1回	ガイダンスー日本思想史とは何か？ー			
第2回	講読する史料の説明			
第3回	史料講読			
第4回	史料講読			
第5回	史料講読			
第6回	史料講読			
第7回	史料講読			
第8回	史料講読			
第9回	史料講読			
第10回	史料講読			
第11回	史料講読			
第12回	史料講読			
第13回	史料講読			
第14回	史料講読			
第15回	まとめ			

試験等
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
担当箇所の現代語訳、関連資料の調査（4時間程度）
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
適宜、プリントなどを配布する。
オフィスアワー
授業の前後
連絡先
tomtom@okayama-u.ac.jp
留意事項
自分の研究テーマと関連させる意識をもつ。

日本民俗学特論I		単位数		2単位	
授業コード	M1320	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	小嶋 博巳				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				
本授業の概要					
日本の民俗宗教の基本構造と歴史について講ずる。まず前提として民俗学の基本的な立脚点、および〈民俗〉概念について考察し、ついで、民俗宗教の各領域の研究成果を検討してゆく。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	日本民俗学の立脚点を理解し、説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	民俗宗教に関する基本的な知識に立って日本の民俗文化および宗教文化を理解し、説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	民俗学および関連分野の論文が読解できる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	期末に課すレポートによって、上記の到達目標の達成度を評価する。			1／2／3	
2	授業中に課した口頭発表を評価に加味する。			1／2／3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
1. 民俗学的認識の誕生 2. 柳田國男の仕事 3. 〈民俗〉と〈文化〉, 〈民俗〉と〈生活〉 4. フォークロリズムをめぐる議論 5. 民俗宗教とは 6. ムラと村落祭祀 7. 村組と地縁集団の祭祀 8. 宮座と当屋制 9. 同族と同族祭祀 10. 先祖祭祀 11. 年中行事の構造 12. 人の一生と靈魂観 13. 祭儀と祝祭 14. 神がかりとシャーマニズム 15. 〈俗信〉という概念					

試験等
期末にレポートを課す。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業のサブテーマごとに関係論文の講読が必要。週ごとに平均１～２時間程度。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
〈参考文献〉授業中に提示する。その他、必要な資料は配付する。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s4012@m.ndsu.ac.jp
留意事項

日本民俗学特論II			単位数	2単位
授業コード	M1325	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	小嶋 博巳			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
遍歴という行動様式と遍歴者の存在に注目し、日本の社会におけるその諸相を探る。とくに定住と遍歴の接点にある〈巡礼〉のさまざまなあり様をめぐり、考察する。				
アクティブラーニングの実施内容		調査学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	日本の社会における種々の遍歴の実態が説明できる。		知識・技能／思考・判断・表現力	
2	民俗宗教が遍歴と定住の交渉を重要な契機の一つとして成り立っていることを理解し、説明できる。		知識・技能／思考・判断・表現力	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	期末に課すレポートによって、上記の到達目標の達成度を評価する。		1／2	
2	授業中に課した口頭発表を評価に加味する。		1／2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 漂泊・遍歴の諸相 2. 巡礼という回路 3. 巡礼類型論 4. プロの巡礼、アマチュアの巡礼 5. 地域的小巡礼とめぐりの習俗 6. 社会的弱者の巡礼 7. ハンセン病と巡礼 8. 乞食巡礼の民俗 9. もの乞いの思想 10. 六十六部日本廻国 11. 持経者の遍歴と如法経信仰 12. 六十六部縁起 13. 王権の神話・儀礼と遍歴 14. 職業的廻国者集団の活動 15. 遍歴と定住の交渉				

試験等
期末にレポートを課す。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業のサブテーマごとに関係論文の講読が必要。週ごとに平均１～２時間程度。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考文献>授業中に提示する。その他、必要な資料は配付する。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
s4012@m.ndsu.ac.jp
留意事項

中国思想史特論I		単位数		2単位	
授業コード	M1330	科目ナンバリング		開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	鈴木 真				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	専門関連科目				
本授業の概要					
前近代中国における儒学・科举・宗族の問題を中心に、当時の漢人社会の在りかたについて、歴史学の観点より考察する。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	前近代中国における漢人社会の思想的・文化的特徴を、儒学・科举・宗族の概念を用いて説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	口頭発表 50%，課題レポート50%			1	
2					
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧					
第 1 回：講義概要 第 2 回：儒教とは何か 第 3 回：五経と四書 第 4 回：中国史における官僚 第 5 回：官僚登用制度の変遷①（漢） 第 6 回：官僚登用制度の変遷②（魏晋） 第 7 回：官僚登用制度の変遷③（南北朝） 第 8 回：科举の導入と理念 第 9 回：科举がもたらした政治的影響 第 10 回：科举がもたらした思想的影響 第 11 回：科举がもたらした社会的影響 第 12 回：科举の隆盛と宗族の形成 第 13 回：宗族と中国社会 第 14 回：科举の終焉 第 15 回：まとめ					

中国思想史特論II			単位数	2単位
授業コード	M1335	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	鈴木 真			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
清代中国における儒学・科挙の問題を中心に、当時の旗人社会と漢人社会との相違について講義する。				
アクティブラーニングの実施内容		発見学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	旗人社会と漢人社会とを比較し、その思想的・文化的特徴の相違点を説明できる。		知識・技能／思考・判断・表現力	
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	口頭発表 50%，課題レポート50%		1	
2				
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
第 1 回：講義概要 第 2 回：大清帝国の誕生 第 3 回：旗人と民人 第 4 回：辮髪と科挙 第 5 回：江南社会と「南巡」 第 6 回：大清における思想統制 第 7 回：大清における「文字の獄」①（康熙年間） 第 8 回：大清における「文字の獄」②（雍正年間） 第 9 回：大清における「文字の獄」③（乾隆年間） 第 10 回：旗人と翻訳科挙 第 11 回：満洲旗人と文学 第 12 回：華夷思想と『大義覚迷録』 第 13 回：科挙と『儒林外史』 第 14 回：官僚と『官場現形記』 第 15 回：まとめ				

試験等
課題レポートの提出
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
授業で配付する史資料プリントを授業前後に熟読し、不明な用語についてはあらかじめ調べておくこと（毎回3時間程度）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
講義中に指示する。
オフィスアワー
月曜日の4時限（14:45～16:15）
連絡先
suzukimakoto@post.ndsu.ac.jp
留意事項
一部、演習形式もとりにれる。

国語科教育特論I			単位数	2単位
授業コード	M1340	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第1期
担当者氏名	伊木 洋			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	専門関連科目 国語科教育学			
本授業の概要				
本授業では、国語科教育学研究の内容を理解し、国語科教育の基礎理論について考察、発表、議論、論述することを通して、高度な専門的資質を身に付ける。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	国語科教育学研究の内容を理解することができる。			
2	国語科教育の基礎理論について考察し、発表することができる。			
3	国語科教育の基礎理論について議論し、その成果を論述することができる。			
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	・主体的に学習に取り組む態度・学習記録 30%			1/2/3
2	・発表 30%			2
3	・提出課題 40%			3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 国語教育基礎論 2. 国語科学力・目標論 3. 国語教育カリキュラム論 4. 国語科評価論 5. 国語教育思想論 6. 国語教育発達論 7. 国語科教材論 8. 国語科教育研究方法論 9. 国語科歴史研究論 10. 比較国語教育研究論 11. 国語科教育学理論研究論 12. 国語科授業研究論 13. 国語科学習者研究論 14. 国語科インクルーシブ教育研究論 15. 国語科教師教育論				

試験等
課題レポート・学習記録
試験のフィードバックの方法
講義でコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各講義のテーマに関する事前課題レポートを作成して、授業に臨むこと（60時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『国語科教育学研究の成果と展望Ⅰ』，2002年，全国大学国語教育学会編，明治図書 『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』，2013年，全国大学国語教育学会編，学芸図書 『国語科教育学研究の成果と展望Ⅲ』，2022年，全国大学国語教育学会編，溪水社 『西尾実国語教育全集第 4 巻』，1975年，西尾実，教育出版 <参考書等> 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』，2018年，文部科学省，東洋館出版社 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』，2019年，文部科学省，東洋館出版社 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』，2019年，全国大学国語教育学会編，東洋館出版社
オフィスアワー
火曜日4限 随時メールで受け付ける
連絡先
higi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、主体的に学習に取り組む姿勢を継続し、学びの全てを学習記録に整理して提出すること。

国語科教育特論II			単位数	2単位
授業コード	M1345	科目ナンバリング	開講年度学期	2024年度第2期
担当者氏名	伊木 洋			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	専門関連科目 国語科教育学			
本授業の概要				
国語科教育学研究の内容と方法について理解を深めるとともに、国語教室創造のための実践理論を探究する。実践理論及び学習指導要領をふまえて単元を構想し、議論、論述することを通して高度な専門的資質と実践的指導力を身に付ける。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	1 国語科教育学研究の内容と方法を理解し、国語科教育の実践理論について考察し発表することができる。			
2	2 国語科教育実践理論、学習指導要領をふまえて単元を構想することができる。			
3	3 国語科教育実践理論及び単元について議論し、その成果を論述できる。			
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	・主体的に学習に取り組む態度・学習記録 30%			1/2/3
2	・発表 30%			1/2
3	・提出課題 40%			2/3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧				
1. 国語科学習指導研究（1）話すこと・聞くことの学習指導研究 2. 国語科学習指導研究（2）書くことの学習指導研究 3. 国語科学習指導研究（3）読むことの学習指導研究 4. 国語科学習指導研究（4）古典の学習指導研究 5. 国語科学習指導研究（5）漢字・日本語基礎事項の学習指導研究 6. 国語科学習指導研究（6）メディア・リテラシー等の学習指導研究 7. 国語科学習指導の実践研究（1）話すこと・聞くことの学習指導 8. 国語科学習指導の実践研究（2）書くことの学習指導 9. 国語科学習指導の実践研究（3）読むことの学習指導 10. 国語科学習指導の実践研究（4）古典に親しませる指導 11. 国語科学習指導の実践研究（5）読書生活指導 12. 国語科学習指導の実践研究（6）語句・語彙指導 13. 国語科学習指導の実践研究（7）国語学習記録の指導 14. 国語科学習指導の単元構想 15. 国語科学習指導の単元構想に関する検討				

試験等
課題レポート・学習記録
試験のフィードバックの方法
講義でコメントする。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
各講義のテーマに即して，事前課題レポートを作成して，講義に臨むこと（60時間）。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> 『国語科教育学研究の成果と展望Ⅰ』，2002年，全国大学国語教育学会編，明治図書 『国語科教育学研究の成果と展望Ⅱ』，2013年，全国大学国語教育学会編，学芸図書 『国語科教育学研究の成果と展望Ⅲ』，2022年，全国大学国語教育学会編，溪水社 『大村はま国語教室全 15 巻別巻 1』，大村はま，筑摩書房 <参考書等> 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編』，2017年，文部科学省，東洋館出版社 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編』，2018年，文部科学省，東洋館出版社 『新たな時代の学びを創る中学校高等学校国語科教育研究』，2019年，全国大学国語教育学会編，東洋館出版社
オフィスアワー
月曜日5限 随時メールで受け付ける。
連絡先
higi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する学生は、主体的に学習に取り組む姿勢を継続し、学びの全てを学習記録に整理して提出すること。